

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年11月14日

【四半期会計期間】 第45期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 株式会社ソフィアホールディングス

【英訳名】 SOPHIA HOLDINGS CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 林 哲也

【本店の所在の場所】 東京都新宿区下宮比町2番26号

【電話番号】 03(6758)0455

【事務連絡者氏名】 取締役 財務・IR担当 巢山 貴裕

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区下宮比町2番26号

【電話番号】 03(6758)0455

【事務連絡者氏名】 取締役 財務・IR担当 巢山 貴裕

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第2四半期 連結累計期間	第45期 第2四半期 連結累計期間	第44期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	1,882,351	4,285,688	4,535,210
経常利益又は経常損失( ) (千円)	239,352	69,885	343,097
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失( ) (千円)	257,653	93	390,694
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	259,079	599	391,562
純資産額 (千円)	356,493	724,505	723,995
総資産額 (千円)	3,377,628	8,410,931	6,810,764
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期(当期)純損失( ) (円)	117.71	0.03	161.78
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	10.6	8.6	10.6
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	396,824	287,706	533,643
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	746,816	23,006	1,635,797
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	888,749	428,733	3,087,970
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,549,334	2,029,261	2,722,739

回次	第44期 第2四半期 連結会計期間	第45期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純損失( ) (円)	52.67	0.29

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、主要な関係会社の異動は次の通りであります。

### [インターネット関連事業]

当第2四半期連結会計期間において、2019年8月1日付けで当社連結子会社であるソフィア総合研究所株式会社が、株式会社アールエムエスの営むSSL証明書販売事業を譲り受けております。

### [調剤薬局及びその周辺事業]

第1四半期連結会計期間において、2019年4月1日付けで当社連結子会社であるルナ調剤株式会社を存続会社、有限会社ビーライク、有限会社コアラ、有限会社ユウアイファーマシー及び株式会社中嶋ファーマシーの4社を消滅会社とする当社連結子会社間の吸収合併を行いました。

また、ルナ調剤株式会社が2019年4月1日付けで株式会社平松薬局、2019年5月1日付けで有限会社長東薬局及び有限会社三榮の株式を取得したことに伴い、第1四半期連結会計期間よりこの3社及び株式会社長東（有限会社長東薬局の子会社）を連結の範囲に含めております。

当第2四半期連結会計期間において、2019年7月1日付けで当社連結子会社であるルナ調剤株式会社が、株式会社アルファメディックスの全株式を取得し子会社化し、2019年8月1日付けで盛徳商事有限会社の全株式を取得し子会社化したため、新たにこの2社を連結の範囲に含めております。

また、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）セグメント情報」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載の通りであります。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで政府の各種政策の効果もあり、穏やかな回復が続くことが期待されます。ただし、海外経済の不確実性、金融資本市場の懸念に加え、相次いでいる自然災害により、先行きはやや不透明な状況にあります。

当社グループの既存事業であるインターネット関連事業及び通信事業におきましては、ICT(情報通信技術)を活用したサービスへの需要の高まりや、2020年に向けた社会インフラの再構築が加速する一方で、社会的には少子高齢化、働き手不足、そして政府より働き方が改革の課題として提案されるなど、当社グループを取り巻く事業環境は大きく変化しております。また、前連結会計年度より新たに参入した調剤薬局及びその周辺事業におきましては、同業他社だけでなく異業種を含む競争の激化、また、人手不足を背景とした人件費の増加、2018年4月からの調剤報酬改定もあり、当社グループを取り巻く環境は、依然厳しい状況が続いております。

このような環境の下、当社グループにおきましては、前期に引き続き財務基盤を確立するため、各種施策を行いました。

インターネット関連事業及び通信事業におきましては、継続した利益率改善を行うため、事業構造の見直しや収益性改善の取り組み、営業体制の整備及び新規顧客獲得の注力を行い、取引先の拡大に努めてまいりました。また、今後需要の拡大が予測されるAIやIoT分野への事業展開を見据え、システム開発案件の受託事業におけるエンジニアの採用・育成を行い、新サービスの開発・提供を通じて、更なる収益力の強化を推進してまいりました。

調剤薬局事業におきましては、M&A等による事業の拡大に努め、また、調剤薬局事業の管理機能を強化し、更なる経営の効率化及び顧客サービスの強化を図ることを目的として、2019年4月1日にルナ調剤株式会社を存続会社、有限会社ビーライク、有限会社コアラ、有限会社ユウアイファーマシー及び株式会社中嶋ファーマシーの4社を消滅会社とする当社連結子会社間の吸収合併を行いました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績としましては、売上高が4,285百万円(前年同四半期比127.7%増)となりました。利益面におきましては、営業利益87百万円(前年同四半期は営業損失208百万円)、経常利益69百万円(前年同四半期は経常損失239百万円)、親会社株主に帰属する四半期純利益0百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失257百万円)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)セグメント情報」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載の通りであります。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

#### [インターネット関連事業]

インターネット関連のシステム開発、データセンターの運用・保守及び不動産仲介業者向けASPサービスの提供等を行い、システム開発案件の受託事業及び不動産仲介業者向けASPサービス等が好調に推移したものの、売上高は469百万円(前年同四半期比5.6%減)となりました。

#### [通信事業]

MVNO(1)、FVNO(2)やISP(3)を中心とした情報通信サービスが順調であったことなどにより、売上高は1,393百万円(前年同四半期比23.5%増)となりました。

## 〔調剤薬局及びその周辺事業〕

前期に引続き、M & A等による店舗数の拡大に努めつつ調剤薬局の運営を行った結果、売上高は2,398百万円(前年同四半期は売上高200百万円)となりました。

なお、当第2四半期連結会計期間の末日現在において当社グループにおける薬局総数は、49店舗となりました。今後もM & Aを積極的に活用し、当該事業を拡大して参ります。

## 〔その他〕

WEBサイトの企画・運営及び管理等を行った結果、売上高は41百万円(前年同四半期比43.6%減)となりました。

- (1) Mobile Virtual Network Operatorの略。自社で無線通信回線設備を持たず、他の移動体通信事業者から借りてあるいは再販を受けて移動体通信サービスを提供する事業者。
- (2) Fixed Virtual Network Operatorの略。自社で固定回線のネットワークを持たず、他の事業者から借りてあるいは再販を受けて固定通信サービスを提供する事業者。
- (3) Internet Services Providerの略。公衆通信回線等を経由して契約者にインターネットへの接続を提供する事業者。

財政状態においては、次のとおりであります。

## (資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は前連結会計年度末に比べ1,600百万円増加し、8,410百万円となりました。これは主として、のれんの増加によるものであります。

## (負債の状況)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は前連結会計年度末に比べ1,599百万円増加し、7,686百万円となりました。これは主として、長期借入金の増加によるものであります。

## (純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は前連結会計年度末に比べ0百万円増加し、724百万円となりました。これは主として、為替換算調整勘定の増加によるものであります。

## (2) キャッシュ・フローの状況の分析

キャッシュ・フローの状況においては、次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は2,029百万円となり、前連結会計年度末と比べて693百万円減少いたしました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は287百万円(前年同四半期は396百万円の使用)となりました。これは主に、のれん償却額の計上、未払金及び、預り金の減少によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は23百万円(前年同四半期は746百万円の使用)となりました。これは、主に事業譲受による支出の減少、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入によるものであります。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は428百万円(前年同四半期は888百万円獲得)となりました。これは、主に長期借入金の返済によるものであります。

## (3) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営環境等について重要な変更はありません。

## (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

2019年7月2日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるソフィア総合研究所株式会社による、株式会社アルエムエスのSSL証明書販売事業の譲受について決議し、同日付けで事業譲渡契約を締結いたしました。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（企業結合等関係）」に記載のとおりであります。

また、2019年8月29日開催の取締役会において、当社連結子会社のルナ調剤株式会社の子会社である株式会社アルファメディックスによる、株式会社メディプランの調剤薬局事業の譲受について決議し、同日付けで事業譲渡契約を締結いたしました。

詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（重要な後発事象）」に記載のとおりであります。

## 第3 【提出会社の状況】

## 1 【株式等の状況】

## (1) 【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,800,000
計	8,800,000

## 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,737,720	2,737,720	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	2,737,720	2,737,720		

## (2) 【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年9月30日		2,737,720		2,358,000	-	652,986

## (5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
株式会社アイソプラ	岩手県紫波郡紫波町日詰下丸森17番地	1,453,000	54.03
株式会社E-BONDホールディングス	埼玉県北葛飾郡松伏町築比地795-1	500,000	18.59
伊藤 満	東京都葛飾区	40,300	1.49
株式会社SBI証券	東京都港区六本木一丁目6番1号	32,618	1.21
松浦 行子	東京都中央区	32,600	1.21
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町一丁目4番地	18,000	0.66
三田 由嘉	東京都港区	12,700	0.47
小野田 俊男	東京都世田谷区	12,400	0.46
伊藤 好一	東京都葛飾区	10,700	0.39
津野 正寿	宮城県東松島市	9,700	0.36
宮口 賢一	東京都日野市	9,700	0.36
計		2,131,718	79.27

## (6) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 48,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,684,700	26,847	
単元未満株式	普通株式 4,220		
発行済株式総数	2,737,720		
総株主の議決権		26,847	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が300株含まれております。  
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数3個が含まれております。  
2. 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式53株が含まれております。

## 【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
株式会社ソフィアホールディングス	東京都新宿区下宮比町 2番26号	48,800	-	48,800	1.78
計		48,800	-	48,800	1.78

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

## (1) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
取締役	萩原 光朗	2019年7月31日

(注) 萩原 光朗は、辞任により退任いたしました。

## (2) 異動後の役員の男女別人数及び女性比率

男性8名 女性1名(役員のうち女性の比率11.1%)

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

なお、当社の監査法人は次のとおり交代しております。

第44期連結会計年度 明治アーク監査法人(現アーク有限責任監査法人)

第45期第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間 監査法人アヴァンティア

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,789,555	2,060,062
受取手形及び売掛金	1,078,527	1,355,875
商品及び製品	262,578	488,469
その他	146,241	76,179
貸倒引当金	4,398	1,106
流動資産合計	4,272,504	3,979,482
固定資産		
有形固定資産	165,611	426,910
無形固定資産		
のれん	2,130,213	3,685,089
その他	8,544	13,290
無形固定資産合計	2,138,757	3,698,379
投資その他の資産		
敷金及び保証金	96,896	130,222
その他	191,859	227,175
貸倒引当金	54,864	51,238
投資その他の資産合計	233,890	306,159
固定資産合計	2,538,260	4,431,449
資産合計	6,810,764	8,410,931

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,237,645	1,752,258
短期借入金	680,640	630,000
1年内返済予定の長期借入金	719,396	954,500
1年内償還予定の社債	57,200	57,200
未払金	140,806	189,864
未払法人税等	96,129	44,678
預り金	446,996	23,661
賞与引当金	4,058	9,644
その他	127,919	152,150
流動負債合計	3,510,793	3,813,959
固定負債		
社債	263,800	235,200
長期借入金	2,243,596	3,566,857
退職給付に係る負債	379	2,769
その他	68,199	67,640
固定負債合計	2,575,975	3,872,467
負債合計	6,086,768	7,686,426
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,358,000	2,358,000
資本剰余金	652,887	652,887
利益剰余金	2,218,613	2,218,519
自己株式	61,965	62,055
株主資本合計	730,307	730,312
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	6,312	5,807
その他の包括利益累計額合計	6,312	5,807
純資産合計	723,995	724,505
負債純資産合計	6,810,764	8,410,931

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	1,882,351	4,285,688
売上原価	1,364,043	2,804,539
売上総利益	518,308	1,481,149
販売費及び一般管理費	726,650	1,393,405
営業利益又は営業損失( )	208,342	87,743
営業外収益		
受取利息	308	277
受取配当金		5
為替差益	1,519	
貸倒引当金戻入額	1,532	7,044
その他	1,076	5,488
営業外収益合計	4,437	12,815
営業外費用		
支払利息	8,618	26,541
借入手数料	26,654	1,256
為替差損		539
その他	175	2,335
営業外費用合計	35,447	30,673
経常利益又は経常損失( )	239,352	69,885
特別利益		
関係会社株式売却益	876	
保険解約返戻金	5,749	
特別利益合計	6,625	
特別損失		
固定資産除却損		8,285
減損損失	800	
特別損失合計	800	8,285
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	233,526	61,599
法人税、住民税及び事業税	22,615	56,571
法人税等調整額	1,511	4,934
法人税等合計	24,127	61,505
四半期純利益又は四半期純損失( )	257,653	93
非支配株主に帰属する四半期純利益		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失( )	257,653	93

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失( )	257,653	93
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,425	505
その他の包括利益合計	1,425	505
四半期包括利益	259,079	599
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	259,079	599
非支配株主に係る四半期包括利益		

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失( )	233,526	61,599
減価償却費	7,035	36,247
減損損失	800	
のれん償却額	18,504	121,146
貸倒引当金の増減額( は減少)	58	6,918
受取利息及び受取配当金	308	282
支払利息	8,618	26,541
為替差損益( は益)	1,519	511
固定資産除却損		8,285
関係会社株式売却損益( は益)	876	
保険解約返戻金	5,749	
借入手数料	26,654	1,256
売上債権の増減額( は増加)	69,515	114,429
たな卸資産の増減額( は増加)	7,159	26,178
その他の資産の増減額( は増加)	42,152	55,992
仕入債務の増減額( は減少)	64,933	65,226
未払金の増減額( は減少)	4,061	36,826
預り金の増減額( は減少)	73,679	428,631
未払消費税等の増減額( は減少)	10,312	8,092
前受金の増減額( は減少)	16,914	14,215
未払費用の増減額( は減少)	673	18,176
前渡金の増減額( は増加)	803	13,298
その他の負債の増減額( は減少)	2,602	5,185
小計	307,818	264,389
利息及び配当金の受取額	384	327
利息の支払額	10,030	25,917
法人税等の支払額	85,109	87,410
法人税等の還付額	0	89,683
保険解約返戻金の受取額	5,749	
営業活動によるキャッシュ・フロー	396,824	287,706

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	30,000	
定期預金の払戻による収入		36,014
有形固定資産の取得による支出	25,484	2,406
無形固定資産の取得による支出	800	
貸付金の回収による収入	2,157	6,681
事業譲受による支出	529,814	22,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	136,817	294,628
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入		307,586
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	22,198	
敷金の差入による支出	3,860	8,462
その他		220
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>746,816</b>	<b>23,006</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	361,800	31,800
長期借入れによる収入	676,200	98,743
リース債務の返済による支出	4,818	3,494
長期借入金の返済による支出	142,921	463,492
社債の償還による支出		28,600
自己株式の取得による支出	15	89
設備関係割賦債務の返済による支出	1,494	
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>888,749</b>	<b>428,733</b>
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>72</b>	<b>44</b>
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	254,818	693,477
現金及び現金同等物の期首残高	1,804,152	2,722,739
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,549,334	2,029,261

## 【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第2四半期連結累計期間  
(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

## 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、連結子会社であった有限会社ビーライク、有限会社コアラ、有限会社ユウアイファーマシー及び株式会社中嶋ファーマシーは、2019年4月1日付で連結子会社であるルナ調剤株式会社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

第1四半期連結会計期間より、株式取得により株式会社平松薬局、有限会社長東薬局、株式会社長東及び有限会社三榮を連結の範囲に含めております。

当第2四半期連結会計期間より、株式取得により株式会社アルファメディックスと盛徳商事有限会社を連結の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

## 財務制限条項

長期借入金1,405,000千円(1年内返済予定の長期借入金320,000千円を含む)について財務制限条項が付されており、当該条項は以下のとおりです。

連結貸借対照表における純資産の部の金額を、当該決算期の直前の決算期末の金額または2018年3月期末の金額のいずれか大きい方の75%以上に維持すること。

連結損益計算書上の経常損益につき2期(但し、中間期は含まない。)連続して損失を計上しないこと。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
役員報酬	147,063千円	185,813千円
給与	162,982千円	419,263千円
業務委託費	159,898千円	107,374千円
貸倒引当金繰入額	1,817千円	116千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	1,749,334千円	2,060,062千円
担保に供している定期預金	170,000	
預入期間が3か月を超える定期預金	30,000	30,800
現金及び現金同等物	1,549,334	2,029,261

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	インター ネット関連 事業	通信事業	調剤薬局 及びその 周辺事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	481,894	1,127,255	200,792	1,809,942	72,409	1,882,351
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15,990	1,373		17,363	892	18,256
計	497,884	1,128,628	200,792	1,827,305	73,302	1,900,607
セグメント利益 又は損失( )	10,498	141,940	194,926	63,485	20,412	83,897

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ECサイト関連事業、海外事業及び健康医療介護情報サービス事業を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	63,485
「その他」の区分の利益	20,412
セグメント間取引消去	11
全社損益(注)	124,433
四半期連結損益計算書の営業損失( )	208,342

(注) 全社損益は、主に提出会社に係る損益であります。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、当社グループ(当社及び連結子会社)は、2018年4月1日付にて調剤薬局及びその周辺事業を推進する会社を設置すると共に、健康医療介護情報サービス事業の機能集約をはかり、資源を効率的に活用可能な体制整備のため、グループ内組織再編を実施いたしました。

これに伴い、第1四半期連結会計期間から、「調剤薬局及びその周辺事業」を報告セグメントとして新たに追加しております。

「遺伝子情報サービス事業」については、本事業の主体であった株式会社ジーンクエストを2017年10月1日付で株式交換を行い連結の範囲から除外したことに伴い、第1四半期連結会計期間よりセグメント区分から削除しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「調剤薬局及びその周辺事業」セグメントにおいて、のれんのコ額に重要な変動が生じております。

第1四半期連結会計期間において、有限会社ビーライクの連結子会社化、ルナ調剤株式会社での有限会社テイエヌ商会からの事業譲受、また当第2四半期連結会計期間において、有限会社コアラの連結子会社化、ルナ調剤株式会社での有限会社メディカルボックス及び有限会社ケイアンドワイからの事業譲受により、のれんが発生しております。

なお、当該事象によるのれんのコ増加額は、当第2四半期連結累計期間においては681,757千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	インター ネット関連 事業	通信事業	調剤薬局 及びその 周辺事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	454,105	1,392,793	2,398,164	4,245,063	40,625	4,285,688
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15,664	976		16,641	735	17,376
計	469,770	1,393,770	2,398,164	4,261,704	41,360	4,303,065
セグメント利益 又は損失( )	61,428	166,188	51,288	176,329	2,531	178,860

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ECサイト関連事業、海外事業及び健康医療介護情報サービス事業を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	176,329
「その他」の区分の利益	2,531
セグメント間取引消去	88
全社損益(注)	91,206
四半期連結損益計算書の営業利益	87,743

(注) 全社損益は、主に提出会社に係る損益であります。

## 3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から、従来「健康医療介護情報サービス事業」について、量的な重要性が低下したため「その他」として記載する方法に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成したものを記載しております。

## 4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

「調剤薬局及びその周辺事業」セグメントにおいて、のれん金額に重要な変動が生じております。

有限会社社長東薬局、株式会社社長東、有限会社三榮、株式会社アルファメディックス、盛徳商事有限会社の連結子会社化が主な要因となっております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては1,612,361千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

短期借入金及び長期借入金が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、四半期連結貸借対照表計上額に前連結会計年度の末日と比較して著しい変動が認められますが、当第2四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(企業結合等関係)

(株式取得による子会社化)

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社は、2019年5月25日開催の取締役会において、株式会社アルファメデイックスの全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2019年7月1日付で全株式を取得しました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称      株式会社アルファメデイックス  
事業の内容                  調剤薬局事業

(2) 企業結合を行った主な理由

調剤薬局事業の拡大を推進することを目的として本株式の取得を決定したものであります。

(3) 企業結合日

2019年7月1日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得する議決権比率

100.00%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社による現金を対価とする株式取得であるためです。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2019年7月1日から2019年9月30日

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	70,000千円
取得原価		70,000千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザリー業務に対する報酬・手数料等 21,500千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

97,268千円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力の合理的な見積りにより発生したものです。

(3) 償却方法及び償却期間

6年にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	124,154千円
固定資産	24,056
資産合計	148,211
流動負債	81,568
固定負債	93,911
負債合計	175,480

(株式取得による企業結合)

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社は、2019年7月2日開催の取締役会において、盛徳商事有限会社の全株式を取得し、子会社化することについて決議し、2019年7月5日付で株式譲渡契約を締結し、2019年8月1日付で全株式を取得しました。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称	盛徳商事有限会社
事業の内容	調剤薬局事業

(2) 企業結合を行った主な理由

調剤薬局事業の拡大を推進することを目的として本株式の取得を決定したものであります。

(3) 企業結合日

2019年8月1日(株式取得日)  
2019年9月30日(みなし取得日)

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100.00%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社による現金を対価とする株式取得であるためです。

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2019年9月30日をみなし取得日としたため、当第2四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書には、被取得企業の業績は含めておりません。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	80,000千円
取得原価		80,000千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー業務に対する報酬・手数料等 13,500千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

27,660千円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力の合理的な見積りにより発生したものです。

(3) 償却方法及び償却期間

5年にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	109,008千円	
固定資産	200,755	
資産合計	309,763	
流動負債	248,924	
固定負債	8,500	
負債合計	257,424	

(事業の譲受)

当社の連結子会社であるソフィア総合研究所株式会社は、2019年7月2日開催の取締役会において、株式会社アールエムエスのSSL証明書販売事業の譲受について決議し、同日付で事業譲渡契約を締結し、2019年8月1日付で当該事業を譲り受けました。

1. 事業譲受の概要

(1) 譲受先企業の名称及び譲受事業の内容

譲受先企業の名称	株式会社アールエムエス
譲受事業の内容	SSL証明書販売事業

(2) 事業譲受を行った主な理由

インターネット関連事業の拡大を推進することを目的として本事業譲受を決定したものであります。

(3) 事業譲受日

2019年8月1日

(4) 事業譲受の法的形式

現金を対価とする事業譲受

(5) 譲受企業の名称

ソフィア総合研究所株式会社

2. 連結財務諸表に含まれている被取得事業の業績の期間

2019年8月1日から2019年9月30日

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	22,000千円
取得原価		22,000千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

なし

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

22,000千円

(2) 発生原因

今後の事業展開により期待される将来の超過収益力の合理的な見積りにより発生したものです。

(3) 償却方法及び償却期間

5年にわたる均等償却

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	千円
固定資産	_____
資産合計	_____
流動負債	_____
負債合計	_____

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失 ( )	117円71銭	0円03銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失( ) (千円)	257,653	93
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又 は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失 ( ) (千円)	257,653	93
普通株式の期中平均株式数(千株)	2,188	2,688

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

## (株式取得による子会社化)

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社は、2019年9月12日開催の取締役会において、有限会社メリーコーポレーションの全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2019年10月1日付で全株式を取得しました。

## 1. 企業結合の概要

## (1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 有限会社メリーコーポレーション  
事業の内容 調剤薬局事業

## (2) 企業結合を行った主な理由

調剤薬局事業の拡大を推進することを目的として本株式の取得を決定したものであります。

## (3) 企業結合日

2019年10月1日

## (4) 企業結合の法的形式

株式取得

## (5) 結合後企業の名称

変更はありません。

## (6) 取得する議決権比率

100.00%

## (7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社による現金を対価とする株式取得であるためです。

## 2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	270,000千円
取得原価		270,000

## 3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

現時点では確定しておりません。

## 4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

## 5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

(事業の譲受)

当社連結子会社のルナ調剤株式会社の子会社である株式会社アルファメディックスは、2019年8月29日開催の取締役会において、株式会社メディプランの調剤薬局事業の譲受について決議し、同日付で事業譲渡契約を締結し、2019年10月1日付で当該事業を譲り受けました。

1. 事業譲受の概要

(1) 譲受先企業の名称及び譲受事業の内容

譲受先企業の名称      株式会社アルファメディックス  
譲受事業の内容          調剤薬局事業

(2) 事業譲受を行った主な理由

調剤薬局事業の拡大を推進することを目的として本事業譲受を決定したものであります。

(3) 事業譲受日

2019年10月1日

(4) 事業譲受の法的形式

現金を対価とする事業譲受

(5) 譲受企業の名称

株式会社アルファメディックス

2. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	253,862千円
取得原価		253,862

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

現時点では確定しておりません。

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。

(重要な子会社等の株式の売却)

当社は、2019年9月12日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるエリアビイジャパン株式会社の発行済株式の全株式を株式会社オフィス24へ譲渡することを決議し、2019年10月1日に売却しました。本件に伴い、エリアビイジャパン株式会社は当社の連結の範囲から除外されます。

1. 株式売却の理由

当社の連結子会社であるエリアビイジャパン株式会社は、2015年3月に当社連結子会社となった後、セキュリティソリューションの提供を中心としたソフトウェア、機器の開発・販売を行ってまいりましたが、市場環境が変化する中、同社事業を拡大し収益改善を目指していくことは困難であるとの結論に至りました。当社は現在、事業ポートフォリオの再構築と経営資源の集中化を行っており、エリアビイジャパン株式会社を当社から独立させ、当社グループは早期の収益改善を図ることが最適と判断し、株式会社オフィス24への株式譲渡を決定いたしました。

2. 売却した相手会社の名称

株式会社オフィス24

3. 売却の時期

2019年10月1日

4. 当該子会社の名称、事業内容及び会社との取引内容

- |              |   |
|--------------|---|
| (1) 名称       | エリアビイジャパン株式会社   |
| (2) 事業内容     | 企業向けソフトウェア、機器の開発、販売   |
| (3) 当社との取引内容 | 当社が当該会社の発行済株式総数の100%を保有しております。また、当社と当該会社との間には、当社から当該会社へのグループ経営における経営指導料を徴収する関係があり、当社と当該会社との間に不動産の賃借取引、資金の貸付があります。 |

5. 売却した株式の数、売却価額、売却損益及び売却後の持分比率

- |              |               |
|--------------|---------------|
| (1) 売却した株式の数 | 129,020株      |
| (2) 売却価額     | 35,043千円      |
| (3) 売却益      | 35,043千円(見込み) |
| (4) 売却後の持分比率 | 0%            |

## (重要な子会社等の設立)

当社の連結子会社であるルナ調剤株式会社は、2019年10月24日開催の取締役会において、株式会社アポロンを設立することを決議し、2019年11月1日付で子会社を設立いたしました。

### 1. 設立の目的

当社では、慢性的な薬剤師不足や後継者不足、人件費の高騰や調剤報酬改定による収益減等が経営の課題となっている調剤薬局及びその周辺業界において、調剤薬局及びドラッグストアへの薬剤師や調剤薬局事務員を派遣する「人材派遣事業」並びに調剤薬局運営で培った多岐にわたる知見をもとに企業等に対する「コンサルティング事業」を開始することによって事業領域を広げ、更なる収益基盤の構築を図るものとします。新事業については、新たに設立する会社において行います。

### 2. 子会社の概要

- |           |  |
|-----------|--|
| (1) 名称    | 株式会社アポロン   |
| (2) 所在地   | 東京都新宿区下宮比町2-26 KDX飯田橋ビル4階  |
| (3) 代表者   | 代表取締役社長 巢山 貴裕  |
| (4) 事業内容  | 薬局の経営<br>医薬品、医薬部外品、医療用器具及び介護用品の販売<br>化粧品、日用雑貨品及び食料品の販売<br>医療機器及び介護機器の販売並びに賃貸<br>経営戦略、企業再生及び事業承継に関する支援及びコンサルティング業務<br>労働者派遣法に基づく労働者派遣事業<br>介護保険法に基づく居宅介護支援業務<br>介護保険法に基づく居宅介護サービス事業 |
| (5) 資本金   | 20,000千円   |
| (6) 設立年月日 | 2019年11月1日   |
| (7) 出資比率  | 100%   |
| (8) 決算期   | 3月31日  |

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月14日

株式会社ソフィアホールディングス

取締役会 御中

## 監査法人アヴァンティア

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 木 村 直 人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 藤 田 憲 三

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ソフィアホールディングスの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ソフィアホールディングス及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 強調事項

1. 「重要な後発事象」に記載されているとおり、会社の連結子会社であるルナ調剤株式会社は、2019年9月12日開催の取締役会において、有限会社メリーコーポレーションの全株式を取得して子会社化することを決議し、同日付けで株式譲渡契約を締結し、2019年10月1日付けで全株式を取得している。
  2. 「重要な後発事象」に記載されているとおり、会社の連結子会社である株式会社アルファメディックスは、2019年8月29日開催の取締役会において、株式会社メディプランの調剤薬局事業の譲受について決議し、同日付けで事業譲渡契約を締結し、2019年10月1日付けで事業を譲り受けている。
- 当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

## その他の事項

会社の2019年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して2018年11月9日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して2019年6月21日付けで無限定適正意見を表明している。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。